

地域活性化という「遊び」

29

京都市
福知山市 「みわ・ダツシュ村」から

山本晋也

農 場で本格的にカフェを始めてから1年が過ぎました。

始めた頃は観光目的の

お客様が多かったのですが

最近は地元の方もたくさん来てくださるようになって嬉しい限りです。

カフェではまず

コーヒーやケーキなど

美味しい食べ物や飲み物を出す事が

とても重要ですが



イベントの名前は「加藤さんと遊ぼう!」。
遊ぶ=学ぶは僕の考えの中心です。

僕がそれよりも大事にしている事が
あります。

極端な事を言うと

それができるのであれば

コーヒーもケーキも

必要ないかもしれません。

食べ物にとことんこだわって

その食べ物の

元になるものを作りたいと

農業の道に入った僕ですが

そんな人間がそこまで言う

食べ物より重要なものとは

一体なんでしょう?

ページも少ないですから

もつたいぶらずに言いますと

「お客さんとお客さんをつなぐ」と

いう事です。

そのうち

うちの農場に来たら

誰かと友達になるまで帰れない

「うちの農場に来た限り誰かと友達
になるまで帰ってはいけません」

というような看板を立ててやろうか

とすら思っています。

なぜかという

それをやると

とても面白い事が起こるからです。

Aという物質とBという物質を

混ぜるとどうなるか?

僕はいつもそういうことを

考えながらお店をやっています。

年 齢やファッションがよく似て

いて

最初から友達になれそうな人をくっ

つけるのは簡単ですし

その後の展開もある程度予想できる

のでそれほど面白いと思いません。

やはり年代が異なったり普段あまり

筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動。そのかたわらオーガニックレストランを経営するも食材を種から作ってみたいとなり、京都市内で畑を始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダツシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。土と向き合ううち田畑と山や川、個人とコミュニティーの関係やその重要性に気がつき、田舎も都会もすべて含めた「大きな意味での自給」を強く意識するようになる。この考え方は、美術家時代にドイツの現代美術家ヨゼフボイスのすべての人々が参加して創り上げる社会彫刻という概念に影響を受けた。現在みわ・ダツシュ村副村長。

接点がないような人同士を
混ぜたらどうなるかというのが

スリル満点でとても面白い。

下手をすると激しく反応して

爆発する可能性もあるわけですから

そこは店主の腕の見せ所。

先ほど「食べ物飲み物は必要ない」と書きましたが取り消します。

やっぱそこは重要です。

美味しい食べ物や飲み物は

やはり人を幸せにしますので

混ぜた時に爆発の危険性が少なくな

りますからね。

そしてつなぐことが

うまくいった時には

食べ物にはさらに美味しく感じられる

という好循環が生まれます。

さらにそこに美味しい空気や風景が

あれば申し分なし。

その方々は間違いなく

僕のお店のリピーターに

なってくれることでしょう。

貴重なコレクションですが
子供好きの加藤さんは
子供たちに遠慮なく
触らせてくれました。



中には最後まで責任持って育てる
という約束をしてクワガタを
もらっちゃった子もいました。

途中で飽きちゃう子もいるかなと
急遽積み木スペースも設置。
ドイツのカブラという積み木で
精度が高いのでとても高く積みめます。

うちの子たちが作ったカレーも
大好評でしたよ。



そしてそういう方々が常連になると
知らない人同士が
知り合いになりやすい雰囲気
その場所に生まれます。
そうなる店主が努力しなくとも
お客さん同士が友達になって
いろいろ面白いことが
起こり始めます。
具体的な例を挙げてみますと
先日うちの常連さんで

地元の大工さんと隣町からやってき
た子連れのお客さんが
初対面で世間話をするうちに
その大工さんが大のクワガタ好きで
世界中のクワガタを60種以上も
飼育されているということがわかり
「じゃあ一度お子さんに見せてあげ
ましょう」という一言と
「どうせならここに来る子供たちに
も見せてやってよ」と僕が言った一

言から
あつという間にイベントに発展。
発案からイベントまでたったの10日
しかなかったにもかかわらず
SNSや口コミから当日は50名以上
の親子連れが参加してくれました。
うちの子たちも
料理が上達してきたため自ら進んで
イベント当日のカレーを担当。
前日から大人用、子供用、菜食の3
種類のカレーを手作りし
味は大好評。
収支面でも彼らがちょっ
としたお小遣いが稼げる
ほどの大盛況でした。

地域おこしにと
地域活性化協議会
やNPO等
まず組織を立ち上げ

会議を繰り返しながら企画する
大きなイベントもいいですが
こういうところで自然発生的
突発的に生まれる小さなイベントも
主催者と参加者の垣根が低く楽しい
ものです。
特に田舎だけが強いというわけでは
ありませんが
人間と人間の間にはいろいろなところ
にいろんな垣根があります。
僕らはここへ来てもう10年目になり
ますが未だに移住者と言われます。
別に悪い気がするというわけではな
いのですが
もう移住者というのを
なんとなく忘れかけていて
移住者交流会などの案内が来ると
自分が移住者だということを
改めて思い出すという感じです。
僕的には
地域の方が本気で地域活性化を望む
のであれば
そういうくだらない垣根をなくすの
が一番の早道だと思っっているの
このカフェという場を利用して
人々の意識の中から
垣根というものを消し去ってやりた
いと思っています。
次なる企てはなんと「夜カフェ」。
「そんなもん虫だらけの夜の農場に
誰がくるねん」と言われていますが
とりあえずやってみようと思えます！